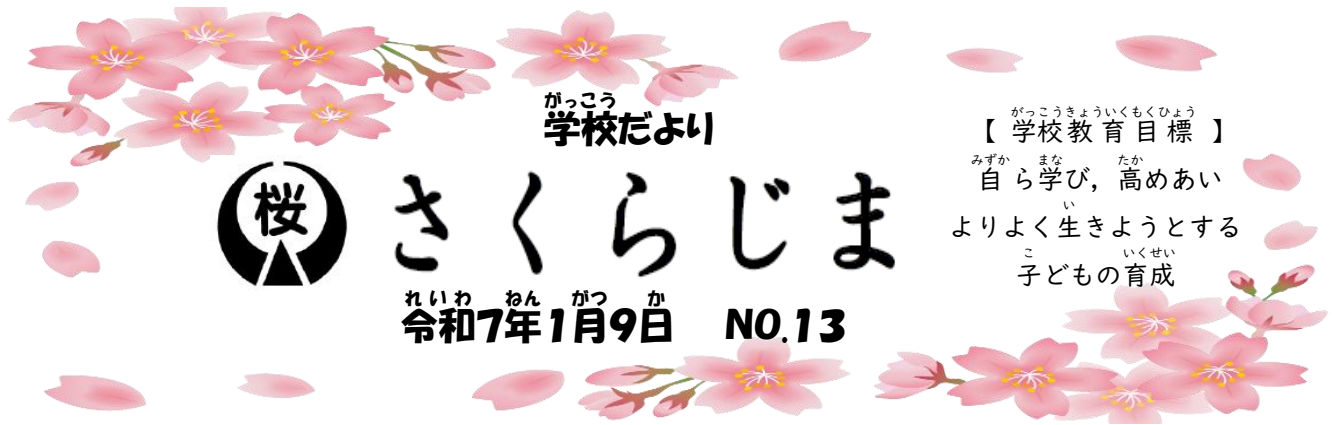




ゆう い ぎ が っ き 有意義な3学期を

3学期の授業日数は、1～5年生が51日、6年生は48日と大変短いのです。この短い3学期を有意義に過ごすには、学年の終わりまでに達成したい目標を決め、こまめに振り返るとよいと思います。目標を達成するために、〈1月の終わりまでに〉〈2月の終わりまでに〉どこまで進んでいきたいのか計画を立て、そのために何をするのかを考えましょう。そして、節目節目に振り返りましょう。

しょうくいん たいしよく 職員の退職について

本校職員の白倉瑠依が私事都合により12月末をもって退職しました。つきましては、3学期より授業の担当者等が一部変更になる学級があります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

たいいくかん おくがい ようしきか 体育館にエアコン，屋外トイレの洋式化

今年度は、浄化槽撤去工事など多くの工事が行われ、敷地内のあちこちでバリケードが張られるなど、子どもたちの学校生活に不便をかけています。

10月から始まった体育館のエアコン設置工事が終了し、ようやく使用の許可が下りました。どのぐらいのパワーがあるのかは使ってみないとわかりませんが、今後は凍えるような寒さの中での卒業式はないだろうとほっとしています。

また、屋外トイレの洋式化工事も進んでおり、1月末ごろには完成予定です。

はいふばんしょ でんしか すす 配付文書の電子化を進めます

学校から、学校だよりや行事等の案内などをプリントで配付しておりますが、校務DX化（文部科学省が中心となって推進している、学校における業務のデジタル化や改革）の一つとして、メール配信システム（きずなネット）に添付する方法へ変更を進めていきます。当面は、プリント配付と電子配付を併用していきますが、状況をみて移行していきます。ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

ひにんちのうりよく

非認知能力アンケートより

2学期末に4～6年生を対象に「鈴鹿市版非認知能力アンケート」を行いました。鈴鹿市が大切にしている4要素〈やりぬく力・自制心・自己肯定感・社会性〉についての16設問に、4段階（あてはまる・ややあてはまる・ややあてはまらない・あてはまらない）の中から回答するものです。否定的回答（ややあてはまらない・あてはまらない）の割合を減らすことを一つの目標にしています。

●アンケート結果【否定的回答の割合】

	桜島小	鈴鹿市（R5）
やりぬく力	9.4%	10.6%
自制心	12.3%	11.9%
自己肯定感	17.0%	15.8%
社会性	2.5%	1.8%

鈴鹿市の数値と比較すると、「やりぬく力」については否定的回答が少なく肯定的に捉えている児童が多いと言える。しかし、他の3要素については否定的に捉えている児童の割合が多い。

設問		今年度	昨年度比 減った○ 増えた△ 同じ－
やりぬく力	①わたしはがんばりやである。	25.4%	○（-4.7%）
	②わたしは始めたことは途中で投げ出さず、最後までやりとげる。	22.5%	○（-0.6%）
	③苦しいことや困ったことがあってもあきらめない。	26.4%	—
	④勉強や自分の役割は一生懸命する。	10.5%	△（+0.8%）
自制心	⑤誘惑に負けない。	31.2%	△（+2.1%）
	⑥先のことを考えて、計画的に行動する。	37.0%	△（+4.6%）
	⑦自分にとってよくないことは、がまんする。	20.3%	○（-2.8%）
	⑧ほかにどのような方法があるのか、考えて行動する。	28.3%	△（+4.2%）
自己肯定感	⑨わたしは、今の自分に満足している。	38.4%	○（-8.8%）
	⑩わたしは、自分という存在を大切に思える。	21.0%	△（+0.3%）
	⑪自分には良いところがある。	22.5%	○（-4.9%）
	⑫わたしは、人と同じくらい価値のある人間である。	21.4%	○（-2.7%）
社会性	⑬友だちと互いに助け合いながら活動できる。	11.6%	△（+5.9%）
	⑭何が良くて、何が悪いのか判断することができる。	11.6%	○（-0.8%）
	⑮学校やクラスのルールやきまりを理解し、守ることができる。	8.0%	○（-1.4%）
	⑯友だちが困っているとき助けることができる。	7.6%	△（+0.6%）

昨年度と比較すると、自己肯定感が上がってきた。設問別では、「①がんばりや」「⑨自分に満足」「⑪良いところがある」の否定的回答が大きく減っている。反面、「⑥計画的な行動」「⑧ほかの方法を考える」「⑬助け合い」の否定的回答は増えている。

自己肯定感の上昇は、本校児童の課題として重点をおいて取り組んできた成果と思われまふ。ご家庭や地域でも意識していただきありがとうございました。しかし、まだまだ自己肯定感が低い児童が多いのが実情です。他の要素の改善も併せて、引き続き取り組んでいきます。今後ともよろしく願いいたします。